

平成31年度重点目標の評価

平成31年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期から拠点につながる切れ目ない支援を充実させていきます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産後の不安軽減の為に、妊娠期から拠点利用につながるように、区と連携して支援に取り組みます。 「マタニティさんの赤ちゃんとの生活プチ体験」「そうだポポラへ行こう」「プレママ健康講座」「両親教室」「土曜両親教室」 ・ 振り返りをもとに、土曜両親教室の内容を改善していきます。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期から拠点につながる機会として、横浜子育てパートナーと区の母子保健コーディネーターが連携して、「マタニティさんの赤ちゃんとの生活プチ体験」(体験型講座)を行なった結果、妊娠期の参加者が増加しました(H30:プレママ42人・プレパパ13人、R1:プレママ68人・プレパパ23人)また、アンケートでは、「参加して良かった」との回答が全員から得られました。 ・ 土曜両親教室では、参加者同士の交流が深まるようにプログラムの変更を行なった結果、アンケートでは、「妊婦同士でおしゃべりができてよかった」との回答が得られました。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期の方に直接周知できる場が母子手帳交付時や両親教室などのタイミングに限られていることにより、タイムリーに講座の周知及び参加につながりにくいことが課題です。 ・ 区役所・拠点での講座の参加者は、拠点のあるセンター北駅周辺の参加者が多く、参加者のエリアに偏りがあることがわかり区民に広く参加してもらえるような周知方法や取組が課題です。
平成31年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポポラサテライト開所に伴い、ネットワークを通して広く区民に周知し理解を広げます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ サテライト開所に向けて、当事者親子、プレママ・パパ、支援者等、様々な方に準備企画に参加してもらい周知を行います。 ・ サテライト準備企画の様子をブログ、ツイッター、広報誌にて情報発信を行います。
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ サテライト開所にあたり、サテライト付近の地域の方々や子育て支援関係施設に丁寧に説明し、開所に関する理解を得ながら準備をすすめることができました。また、8月開催のパパのآوریエ参加87組の当事者親子に加えてひろば利用時にも親子で開所式で使用するガーランドやオブジェの作成等の協力を得ることができ、サテライトを身近に感じてもらうことができました。 ・ 広報誌(ポポラペーパー)でのサテライト開所記念号を発行、ホームページの改修を行うことで、サテライトの情報発信、周知を行うことができました。 ・ サテライトで実施したひろば利用者アンケート結果では、拠点を利用していないと回答した方が62%おり、今まで拠点に来られなかった親子がサテライトを利用していることがわかりました。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点利用者や関係者だけでなく、区民に広く拠点を知ってもらうため、拠点から地域の子育て支援者や団体、場に出向くことが必要です。

次年度重点目標

令和2年度 重点目標	・妊娠期から拠点につながる切れ目ない支援を更に充実させていきます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・区・拠点のどちらかに参加できるよう、妊娠期にタイムリーに参加できる講座(両親教室等)を区と拠点が連携して毎月開催します。 ・妊婦向け講座をサテライトで行い、拠点で開催する妊婦向け講座に参加しにくい方も受講できる機会を設けます。 ・都筑区の子育てネットワーク会議を通じて、妊娠期からの切れ目ない支援の理解を地域に広げていきます。
令和2度 重点目標	・拠点事業を通じて、多様性を感じられる環境をつくれます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点にて、地域作業所のパン販売、作品展示などを通じて、日常あまり接点の持ちにくい人々が出逢い、お互いを知る機会をつくれます。 ・多言語のおはなし会などを実施して外国籍の方々と交流する機会を増やしていきます。
令和2度 重点目標	・公園遊び等事業を通じて、子育てネットワークを更に深めていきます。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援者との関係を深め、拠点と地域のつながりを更に深めるため、日常的な公園遊びに参加するなど既存の事業を通して拠点が地域の子育て支援関係者や団体、場へ出向く機会を増やしていきます。